

国・東京都および町田市の将来像

国の「未来投資戦略 2017」等に基づき、各戦略や計画で示されている今後の目標とされる社会の将来像について、以下のように整理しました。

【将来像のまとめ】

○企業等の活動において…

- ・IoT やロボット、AI 等の新技術を活用し、現在よりも効率よく生産や営業が行われるようになる
- ・ビッグデータ等の情報分析に基づき、精度の高いマーケティングが行われるようになる
- ・IT 技術を活用した決済手段の導入により、金融活動が効率化する

○働く場において…

- ・IoT やロボット、AI 等の新技術を活用し、現在よりも効率よく生産や営業が行われるようになる
- ・これまで個人の経験や勘に頼っていた部分について、IoT や AI 等の技術を利用することで技術の承継を効果的に行うことが可能になる
- ・子育てに対する支援の充実等により女性の社会進出・復帰が進み、現在よりも多くの女性が活躍している
- ・IoT 等の活用により働き方が多様化、ワークライフバランスを重視する社会になっている

○医療・介護等の現場において…

- ・個人のデータ、AI 等を活用し、効果的なケアプランが作成される
- ・IoT やロボット等の導入により、職員の負担軽減と効果的なケアが実現する

○交通・物流において…

- ・自動運転やドローン等の新技術の導入により、配送現場の人手不足解消と効率化が図られる
- ・自動運転等により、高齢者等の交通弱者にとっての交通利便性が向上する
- ・オリンピック・パラリンピックに向けてバリアフリー化が推進される
- ・鉄道等の交通インフラの整備が進む

○金融において…

- ・金融取引において電子化が進む。また、日常の買い物に現金はあまり使われなくなる
- ・AI 等の新技術の導入により、資金の調達や管理が現状より効率的・効果的に行われるようになる

○商業・観光の現場において…

- ・DMO や地域で活動する団体等の主導により、観光客の行動データ分析に基づき効果的な取り組みを進めるとともに、地域資源をうまく活用し、国内外から幅広く、現在よりも多くの観光客を集めるようになる
- ・オリンピック・パラリンピックを契機に、国内外から多数の観光客が東京に集まるようになる
- ・増加する外国人観光客に向け、案内表示の多言語対応等の受け入れ態勢整備が進む
- ・IoT や AI の導入により、個人の多様なニーズに対し、よりきめ細かい対応が可能になる
- ・シェアリングエコノミーの浸透により、個人の資産が効率的に利活用されるようになる

1. 国の将来像(未来投資戦略 2017 から)

2017年6月に「Society5.0(ソサエティ5.0)」の実現を目指した新たな成長戦略として「未来投資戦略2017」が閣議決定されました。

「未来投資戦略2017」では、「これまでデジタル革命による劇的な変革は、コンピュータ産業や通信関連産業の内部にとどまっていたのに対し、第4次産業革命の波は、あらゆる産業、あらゆる社会生活を劇的に変革する可能性を秘めている。(中略)我が国が目指す「Society 5.0」は、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、「必要なモノ・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」ことにより、様々な社会課題を解決する試みである。」と述べられています。

(1) Society 5.0に向けた戦略分野

①健康寿命の延伸

- ✓ 遠隔診療により、通院負担が軽減され、データ・AIを活用した、かかりつけ医による診療を受けられる。
- ✓ データ・AIを活用した最適なケアプランで要介護度が改善。
- ✓ 介護現場におけるロボット・センサー等を活用した夜間見守りなどで職員の労働環境が大幅に改善、その分個々の利用者に最適なケアの提供が可能に。

②移動革命の実現

- ✓ eコマースの進展に伴い物品取引が増大するも、一人のドライバーが行う隊列走行による大量輸送が可能となる。また、ドローンを活用した個別配送など消費者ニーズに沿った新たな配送サービスが誕生する。
- ✓ 自動走行バスと道の駅からの移動サービスの導入により高齢者も外出(買い物・通院等)が続けられる。

③サプライチェーンの次世代化

- ✓ 着たい服をスマートフォンで入力。自分にぴったりの寸法、好みの色・素材の洋服が既製品とさほど変わらない価格で購入できるように。
- ✓ 中小製造業では自社にあった低コストで機能的なロボット・IoTツールを導入し製造プロセスの効率化や売上アップ。原材料仕入れ先や製品納入先とのデータ連携によって取引先の工場の稼働状況や販売計画から先回りした対応が可能になる。

④快適なインフラ・まちづくり

- ✓ 建設現場ではICT建機により習得に何年も要するノウハウを短期間で習得できるようになる。熟練工の長時間労働にしわ寄せしない。

⑤FinTech

- ✓ アプリを使って毎月の家計簿は自動作成。友人への送金もスマホでできるように。サービス申込み時の本人確認もオンラインで実施。アメリカ留学中の息子への仕送りはブロックチェーンにより大幅に安価に。買い物で現金は使わないように。
- ✓ 手形が無くなり、商流情報付き送金電文で煩わしい売掛金や税務書類の作業から解放される。商流情報のビッグデータ分析に基づく融資により、これまでは予測・対応できなかった資金ショートも回避できるように。商品の到着、入金ブロックチェーンで秒刻みに把握。

(2) Society 5.0に向けた横割課題

①データ利活用基盤・制度構築

- ✓ 個々人の状態に応じた医療・介護サービス、消費者の嗜好に応じたカスタマイズ製品、学生の理解度に合わせた教育等が可能になる。
- ✓ 農業現場では、熟練農家の知識、生育状況や気象などのデータを駆使し、安全な作物の収穫と生産性向上の実現。
- ✓ マーケティングの精度・スピードが向上し、革新的な製品・サービスが創出される。
- ✓ 2020年オリンピック・パラリンピック競技大会で東京を訪れた国内外の様々なニーズを有する旅行者が、交通運行情報や施設情報を組み合わせた高度なナビゲーションにより、複雑な東京駅構内でも迷わずに乗り継ぎ、公共交通機関で会場や宿泊場所へスムーズに移動している。

②教育・人材力の抜本強化

- ✓ ITベンダーで販売管理のシステムを古い言語（COBOL等）で開発していたが、30歳代半ばで、e-learningにより新しいプログラミング言語を習得。転職先の会社で、顧客の好みにカスタマイズしたサービスを提供できる新たなシステムの開発を先導し、海外の同業者と比べても遜色のない給料で活躍中
- ✓ 小学校でのプログラミングの授業をきっかけに、10年後の社会で自動走行車やロボットが日常生活に溶け込んでいる姿を自分で設計したいと思い、大学の工学部に進学。情報工学、機械工学のみならず、経営学など他分野も専攻した後、ベンチャー企業を創業。大手企業との共同研究に邁進している。

③イノベーション・ベンチャーを生み出す好循環システム

- ✓ 企業と大学との大型共同研究や、研究開発型ベンチャーへの投資を通じ、自前では難しかった新技術を素早く調達。
- ✓ 起業が一般的なキャリアパスになり、独創的アイデアやシーズをビジネスにつなげた成功話が次々と生まれる。

④公的サービス・資産の民間開放

- ✓ パーキングエリアにおいて、民間事業者のノウハウや地域の資源をいかしたレストランの設置、物産展、各種イベントの開催等により、魅力が向上し、新たな利用者が増加している。

(3) 地域経済好循環システムの構築

- ✓ 地元有志で設立したまちづくり会社やDMOが空き店舗や古民家等の知識資源を再生。観光客の行動をデータ分析して街の活性化と個々の事業者の生産性向上を実現。
- ✓ 自治体と地元企業等が連携し、魅力的なスポーツ観戦が楽しめるだけでなく、コンサートや健康づくりなど、多様な世代が集う地域の交流拠点となるスタジアム・アリーナを構想。民間投資やノウハウを活用し、魅力ある施設を効率的に整備・運営。街歩きアプリのクーポンで、スタジアム・アリーナの集客を商店街や観光施設にも呼び込んでいる。

2. 東京都の将来像(東京都長期ビジョン・都市づくりのグランドデザインから)

(1) 東京都長期ビジョン

「東京都長期ビジョン」は、「世界一の都市・東京」の実現を目指し、2015年3月に策定されました。本ビジョンでは、東京が目指す将来像を達成するための基本目標(I 史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現、II 課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展)や政策目標、その達成に向けた具体的な政策展開、3か年の実施計画などを明らかにしています。

①成熟都市・東京の強みを活かした大会(東京 2020 オリンピック・パラリンピック)の成功

- ✓ 大会開催後も、大会関連施設がレガシーとして、有効に活用されている。
- ✓ バリアフリー化が一層進展し、誰もが円滑に移動できる環境が整っている。
- ✓ 多言語対応の取組が都市全体に広がり、東京に滞在する外国人の言葉のバリアフリー環境が整備されている。
- ✓ より多くの人々がライフスタイルに応じてスポーツに親しむとともに、障害のある人もない人も、共にスポーツを楽しめる都市に発展している。

②高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

- ✓ 首都圏の広域的な道路ネットワークの整備が進展し、渋滞が大きく改善するとともに、羽田空港の機能強化や東京港の再構築により、陸・海・空の結び付きがより強まり国際競争力が向上している。
- ✓ 東京の持続可能な発展を支える、人と環境にやさしい交通体系が実現され、東京が世界一便利で快適な都市になっている。

③日本人のこころと東京の魅力の発信

- ✓ 東京の強みを生かした誘致活動により、M I C E開催都市としての揺るぎないプレゼンスが確立している。
- ✓ 文化プログラムのレガシーが継承され、誰もが身近に芸術文化に触れられる、世界一の文化都市へと成長している。

④福祉先進都市の実現

- ✓ 結婚、妊娠や子育てに関する支援が充実し、安心して産み育てられ、子供たちが健やかに成長できるまちが実現している。
- ✓ 超高齢社会に対応し、医療・介護・予防・生活支援・すまいの一体的な提供により、地域で安心して暮らせる社会が実現している。

⑤世界をリードするグローバル都市の実現

- ✓ 世界一のビジネス都市として国際競争を勝ち抜き、中小企業がイノベーションを遂げ、新たな投資と雇用を創出し、女性・若者等が活躍している。

⑥豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現

- ✓ 省エネルギー化の進展により、東京のエネルギー消費量は更に削減が進んでおり、再生可能エネルギーについても導入が拡大している。

⑦多摩・島しょの振興

- ✓ 多摩ニュータウンなどでは、住宅団地再生が一部で実現するなど、多世代が安心して住み続けられる持続可能なまちへの再生が進んでいる。
- ✓ 多摩地域の幹線道路等の整備が進み、利便性が向上するとともに、災害時の物流や交通が確保され、快適で安全な生活空間が創出されている。

(2) 都市づくりのグランドデザイン

「都市づくりのグランドデザイン」は、2040年代の目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた、都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示したものです。

「活力とゆとりのある高度成熟都市」を都市づくりの目標とし、目指すべき都市像の実現に向けて、分野横断的な視点から7つの戦略、30の政策方針、80の取組を示しています。

①世界を舞台に活躍

- ✓ 国際金融やライフサイエンスなど、付加価値を生み出す国際競争力の高い産業に従事するビジネスパーソンが活発に交流し、新たな価値を創出している。
- ✓ 幅広い分野で新たなイノベーションを生み出すベンチャー企業が途切れることなく創出され、最先端技術を有する企業が東京を拠点として世界を舞台に活躍している。
- ✓ 新たな価値を生み出すインキュベーション施設では、企業、大学、研究機関などのつながりの下、開発・製品化などを支えるプラットフォームが形成され、好循環を生んでいる。
- ✓ 先進技術を活用し、少量多品目でも効率的な農業経営が行われ、大消費地との近接性を生かした都市農業が営まれている。
- ✓ 東京の洗練された食文化や伝統文化、おもてなしの心が世界を魅了し、憧れの的となっている。

②誰もがいきいきと交流・活躍

- ✓ 暮らしに身近な地域においても、駅や商店街などを中心とした交流の核づくりが進められており、地域のにぎわいや活発な交流が生まれている。
- ✓ 古くから続く祭りなどの伝統の継承を通じ、活発な地域コミュニティの下で風情のある街並みが維持・形成され、人々の交流が盛んに行われている。
- ✓ ユニバーサルデザインのまちの中で、介護ロボットや自立を支援するロボットを活用しながら、人々は年齢や障害の有無に関わらず安心して快適な日常生活を送っている。
- ✓ 完全自動運転システムの実用化により、好きな場所まで好きな時間に移動できるようになり、誰もが気軽に外出し、幅広い交流を楽しんでいる。

③多様なライフスタイルを選択

- ✓ テレワークの普及等により時間や場所にとらわれない柔軟な働き方が定着し、子育て中も子供とゆっくり触れ合う時間を楽しみながら、安心して働き続けることができている。

- ✓ 海外のビジネスパートナーとも言語や距離を気にせず会議等のコミュニケーションが可能となっており、スムーズにビジネスが展開されている。
- ✓ リノベーションされた空き家や古民家を別荘として利用するなど、個人のライフスタイルに合わせた多様な暮らしを楽しんでいる。
- ✓ ビジネス拠点でのフェイス・トゥ・フェイスを中心としたビジネス活動とは別に、スペースの広さや自然環境の豊かさを求めて本社機能の移転やサテライトオフィスを設置する動きも増え、生活と仕事を両立できる職場環境が多様な人材を惹き付けている。
- ✓ モノを持たずにシェアやレンタルをする生活が浸透しており、モノ、空間、時間を効率的に活用している。
- ✓ デジタルアート等、最新技術を駆使したアートイベントから日本の伝統芸能まで、多彩な芸術・文化活動が行われ、仕事帰りのビジネスパーソンや国内外の観光客が、東京ならではの芸術・文化を満喫している。
- ✓ 公園等においては、魅力あるパブリックアートが随所に見られ、日常的にライブパフォーマンスが繰り広げられているなど、誰もが気軽に芸術・文化活動を楽しめるサードプレイスとしてのまちの魅力となっている。

④自然に親しむ

- ✓ 多摩地域では、豊かな自然環境の中での本格的なアウトドアスポーツが注目を集め、国内外から多くの人が集まっている。

⑤安心して住み続ける

- ✓ 外国人対応の病院や学校、子育て支援施設などが増え、世界各国から集まった多くのビジネスパーソンやその家族が安心・快適に生活している。

3. 町田市の将来像(まちだニューパラダイム 2030年に向けた町田の転換から)

「まちだニューパラダイム 2030年に向けた町田の転換」は、人口減少、世界に類を見ない高齢化の進展、高度経済成長期につくられた施設の老朽化など、町田市が様々な課題に直面している中で、2030年に向けて「寂れた町田」ではなく「きらめく町田」になるために必要な2つの新しい価値観(=ニューパラダイム)を提言したものです。

【「きらめく町田」になるために必要な2つの新しい価値観(=ニューパラダイム)】

- ・ニューパラダイム1 SMART PUBLIC — 新しい公共サービスのカタチ
…公共サービス水準の維持または向上させるための新しい公共サービス提供のあり方を提言しています。
- ・ニューパラダイム2 GREEN×PLAZA — 人が交流するまちへ
…道路や公共施設の整備を中心とするハードのまちづくりから脱却し、いかに人々が交流し、多様な活動を生み出していくかということを重視するまちづくりを提言しています。

この中で描かれている、目指すべき町田市の将来像について整理すると、以下のような事項が挙げられています。

(1) 都市核(町田駅周辺)

①交通・インフラ

- ✓ 公共施設が集約されたことで集客性が高まり、その周辺で事業を始める民間事業者が増加している。
- ✓ 公共住宅を始めとした集合住宅が建替えられ、駅から徒歩圏内の住宅供給が増加し、居住者が増えている。
- ✓ 駅前の大通りが並木道になっており、イベントの会場や来街者の憩いの場として町田の象徴的な空間になっている。
- ✓ 町田駅前の大規模店舗再開発により、まちの集客力が維持されている。
- ✓ 駅前の通りにテイクアウトのお店がたくさんあり、たくさんの乗り換え客が利用している。

②産業

- ✓ 毎週末シンボルプラザ(公園・駅前の広場)で朝市などのイベントが行われている。
- ✓ 町田ならではの飲食や雑貨店が次々に生まれている。
- ✓ シェアオフィスで起業する人が増えている。
- ✓ 学生が商店街の空き店舗で会社を経営している。
- ✓ 大学のサテライトキャンパスが開設され、まちなかの若者が増えている。

(2) 副次核(鶴川駅・南町田駅・多摩境駅周辺)

①交通・インフラ

- ✓ 急行電車の停車(鶴川、南町田)や隣駅のリニア(多摩境)の開通などにより、鉄道の利便性が向上している。

- ✓ 民間事業者が図書館などの公共施設を運営し、付加価値の高いサービス提供が実現している。
- ✓ 公園の運営権が民間に譲渡され、ブックカフェや貸しスペースなどの民間施設が整備されている。

②産業

- ✓ 駅前でシェアオフィスなどの小規模なオフィスが増えている。
- ✓ 駅前にオープンカフェなどができ、まちなかで滞在することを楽しむ人が増えている。
- ✓ 定年退職後もスキルを活かした仕事に就ける。

(3) 住宅地(市内全域)

①交通・インフラ

- ✓ 多摩都市モノレール、小田急多摩線の延伸計画が具体化し、それに向けたまちの整備が進められている。
- ✓ 団地の空き部屋が保育サービスやコミュニティレストランなど多機能に使われている。
- ✓ 保育園内にコワーキングスペースがあり子育てしながら仕事ができる。
- ✓ 空き家や空き部屋を活用したコミュニティカフェやショップが増えている。

②産業

- ✓ 公共施設や公園・広場周辺で事業を始める民間事業者が増加している。
- ✓ 移動販売車が定期的に来るなど、高齢者の買い物の便がよくなっている。
- ✓ 市民農園での農業体験や食を核にしたコミュニティが生まれている。
- ✓ 集客力のある小学校・公園の周りで飲食店などが増えている。